



令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

学校名【 稲沢市立長岡小学校 】

1 実践テーマ	【I・III・V】
2 実施対象者	5年生（21名）・6年生（17名） 38名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>①教科名（ 総合的な学習の時間 ）</p> <p>②行事名（ あすチャレ！スクール ）</p> <p>③その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>①イベント名（ ）</p> <p>②その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>(1) オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高めるとともに、理解を深める。</p> <p>(2) パラリンピックの車いすバスケットボールを体験し、パラリンピックへの興味・関心を高める。</p> <p>(3) 実際にパラリンピックに出場したことがある講師の話聞き、インクルーシブな社会への理解を深めるとともに、何事にも前向きに取り組もうとする気持ちの育成を図る。</p>
5 取組内容	<p>(1) 事前学習 国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」を利用し、オリンピック・パラリンピックについての関心を高め、理解を深めた。</p> <p>(2) 「あすチャレ！スクール」 1992年から2004年まで、パラリンピック車いすバスケットボールに4回出場を果たした神保康広さんをお招きし、指導のもとで車いすリレーを体験した。初めは慣れない車いすの扱いに苦労していた子どもたちも、自由に向きを変えることができる車いすの仕組みに感心しながら、車いすリレーを楽しむことができ、パラスポーツへの理解を深めることができた。</p>
	

	<p>車いすバスケットボールを体験した後で、神保さんの講演を聞いた。講演では、神保さんが事故で挫折を味わったことや、車いすバスケットボールと出会い、人生が変わったことなどのお話を聞いた。子どもたちは講演を通して、障がいのある人への理解を深め、夢や目標をもつことの大切さを学び、何事にも立ち向かっていこうとする素晴らしさに気付くことができた。</p>  <p>(3) 事後学習</p> <p>実際に「東京2020オリンピック・パラリンピック」をテレビで観戦したことを振り返り、感じたことを今後の生活へ生かしていけるようにアンケート調査を行った。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>【あすチャレ！スクール後の児童の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車いすバスケはシュートをするときに普通のバスケよりも強く打たないと入らないし、転がったボールを拾うのも工夫しなくてはいけなくてとても難しかったです。 ・ 一番印象に残ったのは「毎日目標をもつことが大事」ということです。すごく貴重な体験ができました。 <p>【東京2020オリンピック・パラリンピック後の児童の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目が見えないのにボールを打つことができ、すごいと思いました。 ・ 選手の皆さんはすごく努力しているんだなと思いました。 <p>【東京2020オリンピック・パラリンピック後のアンケート結果（4～6年生対象）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京2020オリンピック・パラリンピックをテレビで観た児童はおよそ8割で、9割の児童が「また観たい」と答えた。 ・ 「あすチャレ！スクール」によりバスケットボールに興味を示して観戦した児童もいた。
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「I'm POSSIBLE」で関心をもたせ、「あすチャレ！スクール」で体験し、オリンピック・パラリンピックを観戦したことにより、児童の関心が持続できるようにした。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「あすチャレ！スクール」はコロナ禍により少人数での参加となってしまった。素晴らしい貴重な体験だったので、全校児童が参加できるようにしたい。 ・ 「あすチャレ！スクール」の実践後や、オリンピック・パラリンピックの観戦後に感じたことを、普段の生活の中に結び付けて生かしていこうとする意欲を持続させることが、コロナ禍にあっては大変難しかった。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「I'm POSSIBLE」を利用して、今後もオリンピック・パラリンピックについての理解を深め、児童の向上心や障がい者理解につなげていきたい。